

安倍晋三内閣による集団的自衛権行使容認に対する反対声明

安倍晋三内閣総理大臣は、このたび、十分な国民的議論もないまま、集団的自衛権行使容認を閣議決定されました。これは、防衛の名のもとに、戦争の可能性を開くものであり、このような改憲に等しい重大事が、恣意的な解釈変更によって決定されたことに、強く反対の意を表明します。

私たちは、「日本国憲法」を、悲惨な戦争を背景に生まれた、非戦に向けた日本国民の誓いであるとともに、国際社会に恒久平和を呼びかける願いの象徴であると受けとめています。集団的自衛権行使容認は、戦争放棄を誓い、願い続けてきた日本国の姿勢を大きく変更するものであり、決して容認することはできません。

安倍内閣総理大臣におかれては、仏陀（覚者）の金言、「殺してはならぬ、殺さしめてはならぬ」（『法句経』）という言葉に耳をかたむけ、熟慮いただき、今回の閣議決定を即時撤回されるよう強く求めます。

2014年7月1日

真宗大谷派 宗務総長

里 雄 康 意